



市川レポート

AI・半導体相場の持続性と2つのリスク要因

- 日米でAI・半導体関連銘柄に売りが出回り、AI・半導体相場の勢いにかげりが出てきたとの声も。
- 日米主要AI・半導体関連銘柄は一部でPERの大幅な上昇がみられるもEPSは総じて改善傾向。
- リスクはAI・半導体関連銘柄の業績低迷と米利上げだが回避できればAI・半導体相場は継続へ。

日米でAI・半導体関連銘柄に売りが出回り、AI・半導体相場の勢いにかげりが出てきたとの声も

日米の株式市場では、このところ人工知能（AI）・半導体関連銘柄への利益確定売りなどに押され、やや不安定な値動きがみられます。ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は、6月2日に過去最高値（終値ベース、以下同じ）をつけた後に幾分調整色を強めており、主要な半導体関連銘柄で構成するフィラデルフィア半導体株指数（SOX）も、6月22日に過去最高値をつけて以降、上昇一服となっています。

また、日経平均株価についても、6月25日に過去最高値をつけたものの、先週はかなり値動きの荒い相場展開となりました。投資家の高い人気を背景にAI・半導体関連銘柄が大きく上昇し、それが相場全体をけん引する状況について、市場では投資マネーの偏りや過熱感を懸念する向きも多く、ここにきてAI・半導体相場の勢いにかげりが出てきたとの声も聞かれます。

【図表：主な日米AI・半導体関連銘柄の騰落率およびPERとEPS】

国	銘柄	アルファベット	アップル	メソプラット フォームズ	アマゾン ドットコム	マイクロソフト	テスラ	インビディア	インテル	クアルコム	ブロードコム	マイクロン テクノロジー	アドバンスト マイクロ デバイス	アナライズ マテリアルズ	ラムリサーチ	ナダック 総合株価 指数
米国	騰落率	+13.0	+3.6	-14.8	+4.0	-23.8	-8.4	+4.5	+257.0	+10.3	+7.6	+301.3	+151.9	+170.3	+140.0	+11.1
	PER	26.6 24.1	32.1 31.1	21.5 16.6	27.8 25.2	27.1 19.3	223.6 177.7	23.2 19.1	62.3 100.8	14.1 19.2	30.6 22.8	7.4 9.9	30.7 50.6	25.3 39.0	29.5 46.7	27.8 24.8
	EPS	11.2 14.4	8.5 9.5	30.2 33.8	7.8 9.4	17.6 19.4	2.1 2.2	7.4 10.5	0.6 1.3	12.2 10.6	10.6 16.7	30.6 105.5	6.5 10.3	9.8 15.0	5.3 8.0	848.3 1,049.6
国	銘柄	村田HD	信越化学 工業	アドバンスト	レーザーテック	SCREEN HD	東京 エレクトロ	ソフバンク グループ	化デフン	村田 製作所	TDK	フジクラ	住友電気 工業	安川電機	ファナック	日経 平均 株価
日本	騰落率	+747.5	+42.5	+62.7	+66.0	+120.0	+117.7	+34.0	+252.1	+230.9	+62.5	+102.5	+83.0	+45.1	+15.9	+38.0
	PER	9.7 9.5	16.3 22.6	42.5 42.8	35.3 44.0	12.8 25.1	25.4 42.4	18.8 49.8	29.7 83.0	21.7 61.2	20.1 29.9	26.0 35.3	18.6 29.6	26.7 33.3	30.9 34.7	19.0 18.1
	EPS	892.7 9,982.9	292.8 329.2	451.0 735.0	834.9 1,058.8	502.4 642.4	1,220.3 1,670.7	219.9 130.8	191.4 270.6	147.1 197.0	110.9 127.0	105.8 134.2	334.8 456.2	171.1 205.4	184.7 213.0	2,650.8 3,821.8

(注) 騰落率の単位は%、2025年12月31日（日本は30日）から2026年6月29日までの期間で計算。株価収益率（PER）の単位は倍、1株あたり利益（EPS）の単位は米国がドル、日本が円。PERとEPSは市場が予想する12カ月先の利益ベース、上段は2025年12月31日時点の値、下段は2026年6月24日時点の値。

(出所) Bloomberg、Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



日米主要AI・半導体関連銘柄は一部でPERの大幅な上昇がみられるもEPSは総じて改善傾向

米国の主なAI・半導体関連14銘柄について、昨年末から直近までの騰落率、昨年末と直近の株価収益率（PER）と1株あたり利益（EPS）の比較をまとめたものが図表です。騰落率は半導体関連銘柄の上昇が顕著ななか、PERは一部銘柄の数値がかなり大きいものの、全てが割高な水準にある訳ではなく、EPSは総じて直近の数字が改善していることが分かります。

次に、日本も同様に、主なAI・半導体関連14銘柄について、昨年末から直近までの騰落率、昨年末と直近のPERとEPSの動きを確認してみます。改めて図表をみると、騰落率は14銘柄全て上昇するなか、PERは一部銘柄で直近の数値がかなり大きくなっており、割高感が強まっている様子がうかがえます。ただ、EPSに関しては米国と同様、総じて直近の数字が改善していることが確認されます。

リスクはAI・半導体関連銘柄の業績低迷と米利上げだが回避できればAI・半導体相場は継続へ

このように、日米の主なAI・半導体関連銘柄については、現時点で市場の利益見通しは総じて良好な一方、一部には相応に割高感が出ているといえます。したがって、足元のような関連銘柄の調整はむしろ自然な動きであり、AI・半導体相場が持続するには必要な要素と考えます。ただ、リスクとしては、①AI・半導体関連銘柄の業績が低迷すること、②米国が本格的な利上げ局面に入ること、この2つが挙げられます。

①に関しては、日々の報道や四半期決算で、業績に関するネガティブな内容が増加しないか否か、②に関しては、雇用や物価に関する米経済指標が強い内容となり、本格的な利上げ局面の織り込みが進むか否かが、今後の注意点と思われます。①、②とも実現しなければ、AI・半導体相場は、ボラティリティ（変動性）を伴いつつも、継続していく可能性が高いとみています。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会